LINDAからのIPニュース

特別号 第13期
2011年4月

明るい未来へ

――日本語コーナー成立1周年を記念に

はじめに

Q：林達劉の日本語コーナーとは？

A：林達劉グループ（以下、林達劉と略す）の日本語コーナーは、昨年の3月24日に誕生しました。所員の日本語のさらなる発展を目的に、所員自らが設立し、日々研鑽に励んでいます。

日本語コーナーは、林達劉の所員なら誰でも参加できます。毎日12時半から1時までの昼休みの時間を利用して、自由テーマで個人発表という形式で行っています。日本語のさらなる上達を目指す所員が、林達劉のセミナールームで、専門的な特許法から機微に富んだ日常生活まで、長い歴史を持つ日中交流文化から日本語表現の微妙なニュアンスや言い回しまで様々な内容について、活発に討論を繰り広げています。

日本語コーナーでは現在、10名以上の固定メンバーが、定例の発表会を開催するほかに、週末や祝日には、ピクニック、会食やカラオケ大会など多彩な活動を行っています。メンバーは、これらの活動を通して、公私ともに信頼できる人間関係を構築しています。

日本語コーナーに興味のある方は、昼休みに、気軽にセミナールームを覗いてくださいね。

日本語コーナーは、2011年3月24日に設立1周年を迎え、お祝いのスペシャルイベントを開催しました。

メンバーは、イベントの12時半の開始時間に合わせ、セミナールームで演出スペースや観客席を確保しながら、11時半頃から準備を開始しました。行政部や企画室の仲間も手伝ってくれたので、12時15分頃までに、観客席のテーブルには、お菓子や果物、飲み物や、プログラム、ゲームに使うプリント、音響・撮影設備などの準備が整いました。また、テーブルには綺麗な花束も飾られ、普段は威圧感のあるセミナールームが、親しみやすくアットホームな雰囲気に様変わりし、準備は万端に整いました。

12時20分頃までに、所内各部門のメンバーが続々と会場に集まってきました。額に汗し、拳を握りしめながらセリフを暗記する司会者、最終リハーサルに余念の無い演出担当者、設備の最終チェックをする音響・撮影等の責任者など、日本語コーナーのメンバーの緊張感と期待感は高まってきました。衣装を着替

えることを忘れ、慌てて更衣室に走ったメンバーもいたくらいです。開演時間までには、リンダ所長を始め、副所長の李茂家、化学部パートナーの李恩華、管理部パートナー候補である常苗苗などのリーダーの皆さんもご来場くださり、いつの間にか会場は興奮と熱気に包まれて、ほぼ満席の状態になりました。日本語コーナーのメンバーは、予想以上の多くの来場者に感激し、期待に添えるよう最高のパフォーマンスをしようと決意しました。

いよいよ12時30分、日本語コーナーのメンバーが作成した映像の放送により、日本語コーナー1周年をお祝いするスペシャルイベントは開幕しました。この映像の前半は、日本語コーナーの固定メンバーからのカメラに向かっての個性溢れる御祝メッセージで、最後にはメンバー全員による「1周年おめでとう！」とシンプルですが心のこもった言葉で皆の気持ちが一つになりました。その後、映像の後半では、日本の国民的なアイドルグループSMAPの楽曲「世界に一つだけの花」をバックミュージックにしながら、この１年間の日本語コーナーの各メンバーによる発表、ピクニック、会食やカラオケ大会等様々な活動の様子をパワーポイントで紹介しました。そこで紹介された日本語コーナーのメンバーの笑顔こそが、その充実した活動振りを現していました。

その後、観客の盛大な拍手の中、イベントの成功の鍵を握るともいえる司会者である化学部の楊凌波と電気学部の葉仲楠が登場しました。日本語の達人である二人は、今回のイベントを成功させるため、個人のパフォーマンスをやめて、司会役に専念しました。司会者は、イベントの中心になって人を纏める大切な司令塔の役割で、空気を読んで場を盛り上げたり、自らゲームに参加して観客の意欲を引き出したりすることが要求されますので、二人にとってもビッグチャレンジだったのです。

司会者の挨拶の後は、日本語コーナー長である特許法律部の日本語翻訳者康倩のスピーチでした。仕事上はいつも大胆でかつ智謀にたけている康さんですが、コーナー長としての初スピーチに、緊張のあまり、練習してすらすらと完璧に暗記していたはずの内容を、度忘れしてしまい言葉に詰まることもありました。しかし、来場した所員の皆さんの温かい声援に励まされた康さんのスピーチは、内容的にも、日本語としても、とても素晴らしいものでした。

続いて、機械部弁理士である孫徳崇が、日本の古典落語の代表的な前座噺「寿限無」を披露してくれました。生まれた男の子の命名で、めでたい名前をということで、縁起の良い言葉を重ねていくうちに、とてつもなく長い名前になってしまったというもので、最も長い早口言葉でもあります。豊かな表情、抑揚のある声や生き生きした表現が際立った孫さんの白熱した演技に、その内容をわからない観客もみな引き込まれました。また、落語家も顔負けの扇子の使い方に、会場は爆笑の渦に巻き込まれました。

その後登場した同じ機械部主管の郭成昇は、日本の総理大臣の演説パフォーマンスをして、イベントをさらに盛り上げました。総理大臣といっても、連続ドラマ「チェンジ」で木村拓哉演じる総理朝倉啓太の最

終回での非常に長い演説でした。特に難しいセリフではありませんが、非常に長い演説であり、何より観客の心に響く気迫や表現力を欠いてはなりません。朝倉啓太になりきるために、郭さんは、事前にセリフや演技にいろいろ工夫して準備をしたそうです。そして、最高のパフォーマンスを披露するために、当日わざわざクライアントと面会する場合のみに着る勝負スーツに着替え、演説の内容に合わせて、時には苦しげに、時には意気揚々と、その堂々とした風格は、本物の政治家に比べても全く遜色はありませんでした。

次は、観客の皆さんにも参加してもらうゲームでした。ゲームは、日本語コーナーの面々が、観客の皆さんとともに、早口言葉の速さを競い、勝った側が賞品をゲットできるというものでした。軽やかなミュージックとともに、ゲーム開始でした。日本語コーナーのトップバッターは、司会を務める葉仲楠で、「俺は強いんだぜ！」と意気込み、観客からの参加を誘い出しました。管理部の日本語担当・時陽陽がチャレンジャーの第一号として、「スモモも桃も桃のうち、桃もスモモも桃のうち」という早口言葉を選びました。もう一人の司会者である楊凌波が「スタート！」と言った瞬間、二人は全力で唱え始めました。結果は、日本語コーナーのメンバーである葉さんの貫禄勝ちでしたが、時さんの勇気を称え賞品が贈られました。

雰囲気はますます盛り上がり、続いて2回戦に入りました。コーナー側からの２番手にはもう１人の司会者である楊凌波が名乗りを上げ、葉さんと同じように、「私も結構強いわよ…」と、どうだと言わんばかりに、観客からの参加を誘い始めました。観客側からも、「何よ、負けるものか！」、「勝負はまだまだこれからよ！」など皆やる気満々でした。そのとき、「私が、楊さんに挑戦します」と、最近企画室から特許法律部に異動したばかりの葉晶晶が立ち上がりました。彼女は、「坊主が屏風に上手に坊主の絵を描いた」というかなり難易度の高い早口言葉を選び果敢に勝利を目指しているようでした。会場の緊張感も高まったところで、二回戦がいよいよスタートした瞬間、２人とも同時に顔を見合わせ吹き出してしまいました。なぜなら、楊さんが葉晶晶さんの選んだ早口言葉の番号を聞き間違いして、２人が同時に異なった早口言葉を唱え出してしまったからです。もう一度仕切りなおしでした。その結果、僅差で楊さんが勝ち、日本語コーナーは連勝して、面目を保つことができました。歓声を上げて喜ぶ日本語コーナー側と対照的に、観客側は、少しだけ意気消沈としたようです。

そこで、観客側の救世主として登場したのは、林達劉の中でも日本語達人とそて公認されている翻訳

部の副部長・特許法律部日本語翻訳の責任者でもある陳潔でした。日本語コーナー側も陳さんの不戦勝を認めるわけにはいきませんので、機械部の弁理士である郭嘉はコーナーの代表としてその対決に挑みました。陳さんは、日本語の達人の貫禄をみせ、一番難しい「東京特許許可局長今日急遽休暇許可拒否」という早口言葉を選び、それに対する郭さんは、その早口言葉の意味はもとより、正しい語順すら分からないようで、すでに勝負あったという感じも否めませんでした。結果は予想通り、陳さんが一息に唱え終わってから3秒後、郭さんはようやく唱え終わり、自ら「みじめな敗北を喫しました」と脱帽していました。

その後、李恩華と孫徳崇との激しい対決や、商標部の肖暉と康倩との接戦など、手に汗を握るような対戦が続き、最終的には、両者の対戦結果は引き分け、ハッピー・エンドで終わりました。

楽しいゲームの後は、法務部の林娜と特許法律部の日本語翻訳者である伍潺潺のショー・タイムでした。彼女たちは、アナウンサーになりきり、動物に関する日本語のニュースを紹介してくれました。臨場感を出すために、二人はニュースだけではなく、それに対応する可愛らしいパンダや猿などの映像までも用意していました。まるでNHKのアナウンサーのように、映像に合わせてニュースを読むことに挑戦した二人のパフォーマンスはプロも顔負けの素晴らしい出来でした。この日のために、何日もかけて準備をしてきた彼女たちの努力に盛大な拍手が送られました。

続いては、今回イベントの一番の見せ場ともいえるアニメの吹き替えコーナーで、日本語コーナーの全員で用意した名探偵コナン劇場版「天空の難波船」の一部分でした。内容も相当に難しかったですし、何より登場人物が非常に多く、お互いの息が合うまでにかなりの時間がかかりました。何度ものリハーサルを重ねた結果、全員が登場人物になりきって演じることがレベルまで上達していました。活発で可愛い鈴木園子ちゃん、老練で慎重な阿笠博士、面白さたっぷりで物事をめちゃくちゃにしちゃう毛利小五郎さん、そして最高に素敵なコナンくん、その他の配役や少年探偵団の子供メンバーなど、観客は目を閉じて声だけを聞くだけで、しばし本物の名探偵コナンの世界に引き込まれていました。

観客の歓声と拍手の中、いよいよ最後のプログラム、日本語コーナー全員による合唱になりました。曲目は、日本の学校の卒業式などでもよく歌われている「翼をください」という曲でした。一生懸命合唱をする日本語コーナーのメンバーは、充実感と満足感に包まれ、皆子供のように目がキラキラ輝いていました。「この大空に翼を広げ、飛んでゆきたい。悲しみのない自由な空へ翼はためかせ行きたい…」。その美しいコーラスは会場に響きわたり、「一度しかない人生、全力を尽くして理想や夢を追いかけて前向きに元気よく生きていかないと、つまらない人生になってしまうでしょう」と、未来への憧れや過去への哀愁という

ものが胸に込み上げ、皆の胸が熱くなってきました。日本語コーナーの者たちだけではなく、静かに耳を傾けていた観客の皆さんも、きっと少年時代に抱いていた志や子供の頃からずっと叶えたい夢が思わず浮かんできたのではないでしょうか。

最高の雰囲気で最後の出し物も終了しました。

最後に、日本語コーナーの活動をずっと応援してきたリンダ所長が簡単なスピーチをしてくださいました。リンダ所長は、「日本が未曾有の大地震に遭い、とても悲しい雰囲気に覆われたこの時期に、活気溢れる日本語コーナーの本日のイベントは、非常に大きな意義があったと思います。皆さんの純粋で清らかな心が見え、多くの人を感動させ、励ましてくれ、多くの希望を与えてくれました」と、今回のイベントを非常に高く評価してくれました。

リンダ所長のスピーチは、簡潔でありながらも、とても意味深いものでした。「人生において、どん底に追い込まれた時や、明日の運命すらわからない時でも、もう一度立ち上がる勇気を持たなくてはなりません。そして、自ら立ち直るのに一番必要なのは、心のどこかに潜めている純粋でひた向きな一生懸命に生きていきたいというまっすぐな気持ちなのではないでしょうか。ですから、日本語コーナーの者たちだけではなく、林達劉の所員たちは是非、明るく積極的に周りに元気を与えるような存在として生きてくださいね」というリンダの発言に、皆大変感銘を覚えました。

日本語コーナーの１周年を祝うイベント無事終了しました。日本語コーナーの皆さんが与えてくれた感動や情熱を、いつまでも忘れることはないでしょう。最高なスペシャルイベントでした。ありがとう。

責任者：代表取締役 弁護士 弁理士 魏 啓学（Chixue WEI）
社長 弁理士 劉 新宇（Linda LIU）
担当者：所員 張 輝 （Ashley ZHANG） 蒋 煜欣（Yuxin JIANG）

林達劉グループ 企画室 （Business Development Department, LINDA LIU GROUP）
〒100013 中国北京市東城区北三環東路36号 北京環球貿易中心C座16階
Tel：86-10-5825-6596 (WEI) 86-10-5825-6089（LIU） 86-10-5825-6366（代表）
Fax：86-10-5957-5201(代表)
E-mail: ipnews@lindapatent.com linda@lindapatent.com
Website: http://www.lindaliugroup.com